

## 高原地域における超促成イチゴの花芽分化促進技術

農業研究センター 高原農業研究所

### 研究のねらい

高原地域の気象条件を活かし、促成イチゴ“とよのか”の早期収穫・収量増加及び収穫期の拡大を図り、生産安定技術を確立するために、10月下旬収穫開始をめざした花芽分化促進技術について、夜冷短日、短日、遮光の各処理を検討した。

### 研究の成果

1. 10月下旬収穫開始のための花芽分化促進方法としては、夜冷短日処理が優れる。
2. 夜冷短日処理の日長は8時間、温度は13℃程度（低温庫を利用した場合）でよい。
3. 夜冷短日処理の処理期間は、通常は20日程度でよいが、処理期間の昼中の気温が高い（32℃以上）日が続く場合は、花芽分化にそれ以上の日数を要するので、低温庫への昼中入庫を行う。
4. 10月下旬収穫開始の場合、8月3～4半旬の定植が必要である。
5. 以上の技術を組み合わせれば、生産性向上技術（10月下旬収穫開始）の確立ができる。

表1 頂花房の花芽分化状況

(平成4年度)

試験区	8/15	8/16	8/20	8/25	8/27	9/2	9/3
短日夜冷							
短日	×	××					
遮光			××	××	×		
無			×	××	×		

注) 花芽ステージ：×：未分化、○：分化初期  
 ○：肥厚期(分化中～後期) ○：ガク片形成期

表2 頂果房の出蕾日・開花日

(平成4・5年度)

	年度	定植日	出蕾日	開花日
夜冷短日	4	8月21日	9月24日	10月2日
"	5	8月12日	9月17日	9月26日
短日	4	8月21日	10月3日	10月13日
遮光	4	9月4日	10月20日	10月29日
普通ホット	4	9月4日	10月20日	10月29日
"	5	8月30日	10月19日	10月30日

表3 年内月別商品果収量

(平成4・5年度)

	年度	10月	11月	12月	年内合計
		(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)
夜冷短日	4	22	756	644	1,422
"	5	136	719	103	958
短日	4	-	288	568	856
遮光	4	-	66	792	858
普通ホット	4	-	40	648	688
"	5	-	148	598	746